

ロジックモデル(案)

具体的取組(個別施策)	指標(実績)
-------------	--------

【入退院支援】

医療機関の認知症高齢者の受入れ状況を把握し、ヒアリングを実施	
入退院調整マニュアルの運用	
多職種連携研修の実施(認知症と病状を踏まえ、優先すべき診療科の案内ができる)	

医師・薬剤師・看護師・介護従事者向け、認知症対応力向上研修の受講者を増やす	
医療機関・介護施設の有資格者やケアマネ・包括職員等に応じた認知症サポーター養成講座を実施	

認知症に関する相談窓口の充実	
----------------	--

【日常の療養支援】

かかりつけ医の対応力向上研修の受講者を増やす。	
歯科医の認知症患者に対する対応の難しさ(現状)を把握し、改善策を考える機会を設ける	
医療・介護従事者向けにBPSD等への対応方法を改めて学ぶ機会を設ける	

認知症の時期別・状態別対応マニュアルを周知する機会を設ける	
広報誌を活用し、認知症に関する相談機関についての周知を徹底する	
多職種連携研修の実施(認知症高齢者の権利擁護に関する研修)	
ACP(人生会議)について利用者(患者)とチーム間で定期的に対話する時間を設ける	
認知症サポーター養成講座のスキルアップ研修(支え隊養成講座)等において、地域に関心を持つ住民を増やす研修を展開する	
医療介護従事者向けに、意思決定支援に関する研修会を広く実施する	
医療・介護従事者に対し初期集中支援チームの活動を有効に活かすための啓発を行う	
医療・介護職向けに、希望を叶えるヘルプカードの活用策の周知	

初期集中支援チームの活動を有効に活かすための啓発活動を行う(再掲)	
医療・介護従事者が認知症時期別・対象別マニュアルを活用する	
認知症対応施設の見学企画(グループホーム、精神科病棟等)	
認知症高齢者のニーズを把握し、不足する地域の社会資源を創出する	
定期的な当事者・家族のミーティングや対話の実施	
施設の受入れ状況の把握(課題把握)	
多職種連携研修の実施(医療ニーズが高い認知症の方へのケア)	

【急変時の対応】

市民や関係機関に対して、想いを伝える私ノートの活用・人生会議の定期的な開催	
医療・介護従事者によるチーム支援(意思決定支援)の実施	
多職種連携研修の実施(認知症を有する人への看取りやケア)	

【看取り】

多職種連携研修の実施(医療ニーズの高い認知症高齢者の意思決定支援)	
-----------------------------------	--

人生会議の開催	
---------	--

番号	令和9年の状態(初期アウトカム)	指標
----	------------------	----

<b>体制整備 多職種・多機関連携</b>		
BPSD等、認知症状が出現している患者の受け入れができる医療機関が増えている。		
入退院時において、ケアマネ等と病院担当者が、認知症患者の情報(症状や特性)をタイムリーに共有できている。		
認知症の有症状が強くても、診療科の調整がスムーズに図られ、入院ができている。		

<b>人材育成・スキルアップ</b>		
病院・施設内において認知症患者(BPSD等)の対応に熟知したスタッフが増えている。		
認知症を有する方の退院に向け、医療・介護関係者が当事者が望む暮らしをサポートできる体制が整えられている。		

<b>普及啓発</b>		
認知症当事者及び家族等介護者への支援が行き届いている。		

<b>人材育成・スキルアップ</b>		
認知症当事者及び家族への初期対応できる医師が身近にいる。		
歯科医においても認知症患者に対応できる歯科医師が増えている。		
病院・介護施設等において認知症患者(BPSD等)の対応に熟知したスタッフが増えている。		

<b>普及啓発</b>		
認知症の初期・中期・終末期に応じたケア・対応方法を理解する医療・介護従事者が増えている。		
気軽に医療や介護に関する相談ができる地域包括支援センターや若年認知症サポートセンター、認知症地域支援推進員の専用ダイヤルの周知が徹底され、必要時に利用ができています。		
日常生活自立支援事業や成年後見制度など、必要な状況に応じてサービス利用ができています。		
急変時のことや胃ろう創設などの状況を想定し、当事者及び家族の意向を定期的に確認する医療介護従事者が増えている。		
近隣住民が認知症を理解し、僅かな変化にも関心を持ち声をかけられる、又は地域包括支援センターへ相談することができており、初期集中支援チームなど支援に繋がる事ができている。		
認知症当事者自ら意思決定できるよう状況に応じた支援ができています		
認知症初期集中支援チームの存在を医療・介護従事者が知っている。		
希望を叶えるヘルプカードを活用する人が増えている		

<b>体制整備 多職種・多機関連携</b>		
関係機関、多職種が連携し、疾病の予防・早期発見・重度化防止等、早期支援体制が強化されている。		
認知症ケアや介護に関する詳しい情報を提供できる人が生活圏域に存在する。		
認知症の当事者を介護している家族がリフレッシュできたり、愚痴がこぼせる場所が増えている。		
認知症の状態像や医療ニーズに応じた社会資源が整っている		
認知症の人や家族が参加できる通いの場や居場所が増えている。		
医療ニーズの高い認知症の人を受け入れる介護事業所が増えている。		
急変時のことや胃ろう創設などの状況を想定し、当事者及び家族の意向を定期的に確認する医療介護従事者が増えている。		

<b>人材育成・スキルアップ・体制整備等</b>		
本人が自ら意思決定できるよう支援できている		
本人の意思や状況を継続的に把握し、事前に医療・介護従事者が本人が望む医療・ケアについて共有することができている。		
中等度の認知症の当事者であっても、表情・態度・行動からサインを読み取り、急変を見逃さないスキルを医療・介護スタッフが身に付けている。		

<b>体制整備 多職種・多機関連携</b>		
不安や混乱する頻度が減少し、望む場所で過ごせる期間が延びている。		
<b>多職種・多機関連携</b>		
医療・介護従事者が本人が望む医療・ケアについて共有することができる。		

番号	令和12年の状態(中間アウトカム)	指標	番号	最終的に達成したい状況(2040年)(最終アウトカム)	指標
----	-------------------	----	----	-----------------------------	----

1	認知症の人が安心して療養することができる環境が整っている。	
---	-------------------------------	--

1	本人が望む場所での生活が可能であり、専門職、担い手、サービスの受け手、誰もが暮らしやすくなっている	
---	---	--

資料7

2	認知症の人が住み慣れた地域で、疾患、介護度に応じた多職種協働による医療・ケアを受けることができる	
---	--	--

3	急変時に認知症の人が望む医療・ケアを受けることができる	
---	-----------------------------	--

4	認知症の人が住み慣れた自宅や介護施設など本人が望む場所で看取りの医療・ケアを受けることができる	
---	---	--